

| 番号  | 氏名    | 抱負   |
|-----|-------|--|
| 141 | 田頭 裕之 | 愛媛大学附属病院 田頭裕之と申します。中国四国支部で理事をしております。私の理念を以下に示します。近年の放射線医学の進歩は著しく、中でも画像診断・放射線治療・核医学検査は患者さんの病気の発見などに大きな役割を果たし、今や検査や治療に無くてはならないものになっています。各分野で研究を行い、医療被ばくの低減をより心がけた検査を目指す放射線技術学の発展に貢献できる環境を整備したいと考えています。 |
| 142 | 高田 賢  | 大垣市民病院に勤務し、CTおよび血管造影を担当しています。また、放射線取扱主任者として選任されており、放射線安全管理業務にも力を入れて取り組んでいます。施設内でも中堅となりつつあり、先輩方の指導のもと、若い診療放射線技師の教育にも取り組んでいきたいと思っています。よろしく願い申し上げます。  |
| 143 | 高田 忠徳 |  |
| 144 | 多賀谷 靖 |  |
| 145 | 武井 宏行 | 学会の本質的事業は良質な論文を世の中に多く排出することである。また学会の基盤である学会員を増加させるためには、その魅力をリンクさせていくことが必要であり、学生や新人向けの発表から論文化までの教育セミナー等が必要であると思う。本年の関東部会研究発表大会長としてこのような企画を提案しており、また倫理教育も担当する。会員と論文の増加に寄与できるように活動していく所存である。            |
| 146 | 竹井 泰孝 | 福島原発事故以降、国民の放射線に対する意識が高まり、医療被ばくに対しても強い関心が寄せられるようになりました。私は放射線防護分科会委員、部会研究会世話人としての活動経験を通じ、会員並びに市民の皆様へ放射線防護の知識啓蒙の必要性を強く感じました。そのため代議員として技術学会の意志決定に参画し、放射線防護知識の啓蒙、診療放射線技術学の更なる発展に貢献したいと考えております。           |
| 147 | 立花 茂  | 春秋の学術大会時の特別講演や教育講演の充実を図るのはもちろんであるが、特に専門分科会でのセミナーや講演会などの教育的催しものを出来るだけ多く地方で開催し、若い人たちが無理なく、気軽に参加できる環境を整備し、各分野の基礎的な部分から最先端技術までの習得を目指し、放射線技術学と国際化を確立するための基盤づくりを目指します。                                     |
| 148 | 辰己 大作 | 日本放射線技術学会近畿部会理事、治療分科会委員、編集委員を務めさせて頂いております。日本放射線技術学会は、放射線技師の将来の命運を握る重要な会であると認識しています。微力ながら、そのお手伝いが出来ればと考えています。どうぞ、よろしく願いいたします。   |
| 149 | 田中 利恵 | 私たちが学会に期待することを声に上げていきたいと思います。  |
| 150 | 谷 正司  | 私自身が50歳を迎え、後進の未来を考える時、自分や自施設のポリシーだけでなく学会レベルでの方向性を自ら見極める事が必要と考えます。そのために代議員となり、現場の意見を学会に、学会の方向性を現場に反映させたい、と考えています。   |